



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 大 口 弘 和
 幹事 谷 口 優
 会報・雑誌委員長 山 本 英 次

No. 19

慈愛の種を播きましょう Sow the Seeds of Love

2002～2003年度 RI会長 ビチャイ・ラタクル

きょうの例会
 第973回 平成14年11月26日(火)

友愛の日

きょうの例会
 第972回 平成14年11月19日(火) 晴

◆“我等の生業”

◆出席報告

会員	71(65)名	出席	40名
出席率	61.54%		
前々回	10月29日(修正出席率)	95.38%	

◆ビジター紹介 2名

谷口幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を開催致しますので、理事役員の方は2階の橋の間にお集まり下さい。
2. 年末会員家族懇親会ですがお一人でも多くのご出席を宜しくお願い致します。
3. 20周年記念事業で歌碑を寄贈した感謝状を東山植物園より頂きました。
 ※歌碑除幕式の写真パネルは植物園に贈呈させて頂きました。

黒野貞夫君 文部科学大臣賞受賞



以前山本眞輔さんが、内閣総理大臣賞を受賞され、引き続きこのような賞を戴き光栄に思っております。昨日は中日新聞のコラム“この人”にも掲載され、自分自身びっくりしておりますが、ご覧頂ければ嬉しく思います。

大口会長挨拶

黒野先生、この度は文部科学大臣賞おめでとうございます。また先日はチャリティーランと地区大会にご出席頂きました方々ご苦労様でした。先週は職場例会に同窓として何十年ぶりに訪れ、あまりの変わりようにビックリ致しましたが、宮尾職業奉仕委員長はじめお世話頂いた皆さんに感謝申し上げます。改めて挨拶が遅くなりましたが、水野名誉実行委員長、松居実行委員長、宮尾実行副委員長、鈴木(理)実行副委員長、伊藤国際奉仕委員長、吉田社会奉仕委員長はじめ皆様が一丸となり20周年記念式典が成功裡に終わり、他クラブの方から称賛のお言葉を多々頂き、特に能楽堂で催しをするという思いもよらない発想が良かった事とバンドの評判が良く名北RCの会報に会長挨拶の中でも感銘を受けたと紹介されておりましたことは嬉しいことでした。

ところで年末年始は飲酒の機会が多くなります。適量ならストレス解消にもなりますが、飲み過ぎると良いことはありません。

日本人の約40%はお酒に弱い体質であると言われており、見分け方としてエタノールをガーゼに湿らせて上腕の内側にはる方法があります。ガーゼをはって7分、はがして10分後にその部分が赤く変化したらアルコールに弱い体質と言えます。

「お酒に弱い人は訓練すれば強くなれる」と言うのは間違いのようで、飲酒の回数が多くなると身体の反応が鈍くなることから「強くなった」と勘違いしているようです。体質や体重によって異なりますが体重が60kg-70kgの人がビール1本を30分かけて飲んだ場合、身体がそのアルコールを処理するのに3時間位かかると言われております。

酒については、古くからいろいろなことが言われています。室町時代の狂言「餅酒(もちさけ)」には「酒の十徳」、江戸時代の随筆集「百家説林」にも「飲酒十徳」があり、当然ながら反論もあって、「徳」どころか「狂水」「地獄湯」と説く古文書も少なくない。作家の井上ひさしさんのエッセイ集「本の枕草子」で、酒の十徳はあてにならぬ、むしろ十損があると言っている。即ち、1) 相手かまわず絡み 2) 喧嘩をし 3) 自分の能力もかまわず出来ない約束をし 4) あたりの迷惑をかえりみず歌をうたいま

くり 5) へどを吐き 6) 立小便をし 7) 傘や鞆をどこかに置き忘れ 8) 電車を乗り過ごし 9) 女房にいや味を言われ 10) 後日、勘定書きに顔面蒼白になる、の十損です。また、損と徳を見極めたことわざでは「一杯は人酒を飲む、二杯は酒酒を飲む、三杯は酒人を飲む」とある。量が過ぎれば正体を失う、お酒はほどほどが肝心ということでしょうか。

地区大会報告

●榎尾 富二君 (11月16日)

今年度の地区大会は、半田南RCのホストで盛大に開催されました。

2時からの本会議では、ガバナーが主催者挨拶として「今後の奉仕活動の指針にさせていただくために多くの情報提供を企画しました。温かい慈愛の種を播いて下さい。」と話されました。RI会長の名代としてご出席の仲谷純三RI会長代理は、今年度のテーマ「慈愛の種を播きましょう」について解説され、「会長は東洋の仏教国のご出身であり大変親しみを覚えるテーマです。我々ロータリアンの活動への良き指針を示して頂いたと思います」と感想を述べられました。

引き続き、各委員会報告、大会決議案の採択、年次会計報告並びに承認がなされました。その後、2005年国際博(愛・地球博)に建設予定のロータリー館(友愛の館)の説明も行われ、各クラブで1回は例会を開いてほしいとの要望がありました。

ロータリーミーティングでは「新世代がロータリーに期待するもの」と題するパネルディスカッションが行われ、若者側からは「子どもの良さを認めて、子どもの気持ちをわかってほしい」との意見が、大人側からは「物質的に豊か過ぎる社会に育った子どもたちと価値観のずれはあるが、新世代の意見も素直に聞き、よりよい日本を作っていきたい」との感想が出されました。

私は地区大会に初めて参加させて頂きましたが、ロータリーの良さが更に理解でき、実りある有意義な会議だったと思います。

●山田 壽勝君 (11月17日午前の部)

少年少女合唱団のオープニング・アトラクションに始まり、RI会長代理の仲谷純三御夫妻の入場後、開会・点鐘、来賓・特別出席者紹介、物故者の冥福黙祷があり、足立一成さんのお名前も読み上げられました。

それから各種の表彰、王道海君ほか米山奨学生・交換学生など約60名の紹介がステージで行われ、この方々の中から、将来第2の緒方高等弁務官のような世界の平和に尽くす人物が再現するものと感じました。

メイン・テーマの「RI会長メッセージと現状報告」が行われ、「慈愛の種を播きましょう」「我々のクラブに、職場に、地域社会に、そして世界に」というRI会長のメッセージを、石川県の歯科医師会会議長である仲谷純三さんが、懇切丁寧にお話され、この地球上164の国々にひろがる国際ロータリーの組織と実績の素晴らしさを分かり易く説明されました。

●池森 由幸君 (11月17日記念講演)

政治評論家の森田実氏による講演を拝聴致しました。

氏は国会における代表質問の中で自民党の堀内氏が発言された「グローバル化の中、他の国の基準を他所の国に強引に持ち込むのはいかなものか…」を取り上げられ、「日本独特の和の精神を持ちながらグローバルリズムと調和して行かなければならない。伝統的な日本を維持しながらグローバル化をすべき」との持論を改めて披露され、米国の政治絡みの米国ファンドによる日本買いに警鐘を鳴らされました。また、ニーチェの「脱皮できない蛇は死ぬ」との言葉を用い、構造改革の必要性は認めながらも、性急な変革は革命に等しく、過去の歴史から見ても革命当初の理念が継続なし得た革命は無く、結果として悲惨な状況を国民に押し付けることになるとの見解を示されました。

経済政策に関しては、ミスター大蔵省の異名を持つ榊原氏の言を借り、「現政府の不良債権処理デフレ対策は新たなそしてより大きな不良債権を生み出し、デフレ要因を促進することになる」との見解を指示されていました。

一方で、日本と英国を比較され、日本の地方・地域社会の健全さを、徳富蘆花の「国家は地方に依存する」の言葉を引用し賞賛されましたが、第一級のインテリの存在が少ない事を国家レベルで杞憂されていました。

近世における長年にわたったインフレの原動力は「人口増加」がその主要因であったので、現状のデフレが画期的・根本的なインフレ傾向に転じる可能性の少なさも述べられました。

そこでは、デフレとインフレの国民に及ぼす影響を比較され、インフレは押し並べて全国民に影響を与えるが、デフレは一部の国民に壊滅的な影響を与えるとの、構造的な違いを説明され、「痛みを伴う改革」は止む得ないとしても、「将来に希望があれば現状の苦境を乗り越えられるので、政府は夢を与えよ」とも述べられていました。

講演後の質疑では「人類の歴史上、繁栄期には人間の能力が衰えるが、危機に遭遇すると能力が引き出されるので、現在はその転換期である」との見解と、「地域社会での堅実な創生が地道に成しえれば、引いては国家を蘇らせる事が出来る」また、「地域社会から選出されている政治家にもっと意見を述べて、積極的に支援することによって政治に参画すべきである」と結ばれました。

マスコミを通じて拝聴している氏の持論そのものでしたが、直接聴衆に語りかけられる口調からはまた違った趣のある有意義な講演でありました。

●ニコボックスは紙面の都合上、次回掲載致します。

●次回例会 (12月3日)

講演

“ものづくり・夢づくり” 人形作家 夢童由里子さん
(紹介 山本(眞)君)